

ND

キャンパス通信

Vol. 23

2025.9

わたしらしく、誇らしく

Be Notre Dame, Be Myself



京都ノートルダム女子大学
KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY

ND VOICE

学生募集停止の決定について

京都ノートルダム女子大学 中村 久美 学長

今回のND VOICEでは、2025年4月に発表された学生募集停止について、中村学長がその経緯や今の思いを綴りました。

この度の2026年4月募集停止の決定は、大学ステークホルダーの思いと、教育機関としての社会的責任との間での苦渋の決断でした。とはいえ、大学淘汰の時代にあって、多くの大学がしのぎを削る中、どうして本学が先んじて閉じなければならないのか、今でも悔しい思いを持ち続けています。

そもそも本学の誕生は、祝福に満ちたものでした。学界、財界の著名な有力者で構成された大学設置委員会は、ノートルダム女学院の保護者とアメリカのシスターたちの熱意に応える形で設立されたのですが、専門学校を礎に4年生大学に昇格した女子大学が少なくないなか、本学は当初から、リベラルアーツ大学として構想されました。

1961年に開校した本学は、以来30数年間、アメリカや日本のシスターが理事長、学長を務めました。徳と知の建学の精神のもと、初代学長のことは“be a Lady”に従って行われた教養教育と、アメリカのシスターたちによる献身的で厳格な英語教育により、京都随一の「お嬢様大学」「英語のノートルダム」の評価を定着させました。創立の経緯もあって、この期間の卒業生たちは、本学への誇りと自信をもって卒業し、社会で活躍する一方、送り出す教員にも、誇り高い意識が満ちていたと思います。1999年に着任した私にも、その余韻が感じられました。ただし、この創立から30数年の本期間の終末頃には、すでに大学の増加と激化する学生確保の競争を見越して、共学化の議論を起こしたり、拡大、改革を打ち出す女子大が出てきていたのです。

大学戦国時代に入って遅ればせながら、本学にも戦略的経営の時期はありました。40年近く変わらず1学部2学科でいた本学は、2000年代に入って入学定員を増やし、1学部4学科になります。しかしその後、4学科のうち、生活系、心理系分野が学部として独立し、学部数は3つに増えたものの、戦略的改革の波はすぐに氾濫してしまいます。そのような状況を危惧してか、経済界から法人理事長を迎えたことがありました。戦略的経営を私たち教職員は期待したものの、一瞬の出来事に終わりました。

その後、入学者減による赤字財政に陥ってからは、歴代学長、個々の尽力により、本学浮上の策を練り出しました。悲願であったキャンパスの建て替え、GP*の採択と教育改革、一学部化をねらった改組の頓挫とそのリベンジとしての二学部化の断行、などなど。それらの直後、2017年度着任の学長は、建学の精神やミッション・コミットメントを、本学に集う教職員、学生の心に今一度刻もうとされましたが、そのときすでに財政的には、減価償却預金を取り崩す状況に陥っていました。何より、以上の歴代学長の実績は、一貫した経営ヴィジョンのもとで行われたものではなく、また互いに連携し合うものでもなく、あくまで個々の構想に基づく単発的奮闘の結果であったのです。

2020年1月29日に学長を拝命した私は、すぐさまコロナ禍の対応が求められました。実際には、コロナ禍でのオンライン授業の配信とそれへの学生支援、じり貧になった海外留学、研修の復活、キャリア教

※GP (Good Practice) : 大学基準協会が認証評価する、大学等が実施する教育改革の優れた取組のこと。



育を中心とするアクティブラーニングや体験学習の充実化は、社会の動向に機動的に適応した教育支援部局や教育、支援系センター、及び熱意ある教員の尽力によるもので、それらを大学広報として発信しました。一方、学生募集の立て直しをめざした教育研究組織の改編は、本学の強みを生かしながらも、厳しい財政下では、大学設置基準の緩和を利用した苦肉の策を取らざるを得ず、結果的に一度も前年度の学生募集を上回ることはありませんでした。

募集停止の報を伝えるメディアの論調は、一様に、女子大学の共学化に言及し、それが本流であるかのようです。共学化は大学存続のための学生募集の活性化には合理的な方策かもしれません。しかし本学は、女子教育を使命として創立した大学です。そして日本の社会は、女性が確実に成長して自信を身につけられる、女子に特化した教育機関がまだまだ必要と確信しています。そういう意味では、女子大生がのびのび学べる教育環境を、未来の学生たちに失わせることに、改めて罪悪感を抱きます。

ユージニア館4階吹き抜けの大窓から京都市街を眺めていると、周辺には京野菜の畑が広がるだけで何もなく本学創立時の様子を想像します。そこから60余年、周辺の市街化とともに、巣立っていった卒業生たちと、その間に奉職した旧教職員、そして今、この厳しい結果をつぎつづけられながらも、大学使命に尽力してくれている現教職

員、すべての人たちの無念に、圧倒される思いがします。願わくば、今年度の入学生が、本学最後の卒業生として誇りをもって卒業していただけること、それを共に見届けてくれる教職員や同窓生も、誇りをもって京都ノートルダム女子大学のキャンパスに別れを告げられることを！

祈りと決意をもって、窓の外に広がる下鴨の景色を眺めます。

みなさま、どうぞ本学閉校の日まで、学生たちを見守ってください。女子教育の使命を全うしようとする私たちに、どうぞご理解とご支援を賜りますようお願いいたします。



心理学科が心理学の入門書を刊行！！ 『京都北山エリア ぐるっと心理学さんぽ』 ができあがるまで

現代人間学部 心理学科13名の教員による

『京都北山エリア ぐるっと心理学さんぽ』が2025年春に

出版されました。刊行までの経緯について、

心理学科の伊藤一美教授にお話を伺いました。

心理学×京都さんぽ 日常から生まれる問いに向き合う一冊

『京都北山エリア ぐるっと心理学さんぽ』は、「カウンセリングって

どんなことをするのか?」「試験前についてゲームをやってしまう……」

「家族関係ってたまにしんどい!」など、日頃の素朴な疑問や悩みを、心理学の視点から考える一冊です。

主人公の高校2年生のこころちゃんがお散歩途中でふと「?」と思いつぶやく、するとひょっこり心理学者が現れてそれぞれの専門領域からわかりやすく答える形式で、心理学を初めて学ぶ方にもおすすめです。各章冒頭のこころちゃんの問いが、心理学の専門知識や実践についてのエピソードにつながり、章の締めくくりで何らかの答えに着地する構成になっています。

また、こころちゃんのお散歩スポットは、自然や歴史が豊かな本学周辺のさまざまな名所。北山エリアの散策コースとしても楽しめます。

こころちゃんは心理学者と語らう中で少しずつ成長していきます。それは、学生と教員との距離が近く、授業以外でもそこかしこで対話が生まれる、本学の少人数教育の雰囲気似ています。

NDならではの心理学教育を伝えたい

本学の心理学教育は、大学設立当初の2学科のひとつ、生活文化学科の心理学ゼミである住田ゼミ・中沼ゼミから始まりました。2000年4月に生涯発達心理学科として独立して以降、多くの学生・大学院生を輩出してきました。その20年以上の実績をもとに、その面白さを世間に発信できないだろうか……たとえば、学科教

『京都北山エリア ぐるっと心理学さんぽ』

編：伊藤一美・向山泰代

出版社：ナカニシヤ出版

発行：2025年4月



員の研究や実践を知ってもらいつつ、これから心理学を学びたいという初学者にもわかりやすい本を学科教員全員で作ってはどうかろう……となり、伊藤・向山・高井・松島・菊野・武藤の6人がワーキンググループとなって素案を練りはじめました。

教員の専門領域、研究と実践の幅、今書きたいこと……。すべてばらばらの状態からはじまりましたが、「こころちゃん」という女子高校生との対話を切り口にすること、キャンパスのある北山界隈の魅力も伝える本にすること、という2つの軸で13の章を構成することに。こころちゃんの問いとスポットを本文に絡め、旅行書のように写真も入れ、「よりみちコラム」も織りこめました。写真や地図は著作権に抵触しないようにと分担して撮影・作成しました。

実は、出版をお引き受けくださったナカニシヤ出版様は、心理学専門書の出版で有名ですが、他方で山登りや散策についての書籍も数多く手掛けておられます。心理学と京都散策を掛け合わせた今回の設えにあたってもアイデアをたくさんいただきました。

心理学は、日々の生活の中で生じる好奇心や悩みのすべてがテーマになりうる学問で、生涯にわたって心の杖にもなります。机やPCに向かって勉強するだけではなく、歩きながら思索することとも非常に相性がよいのです。この本を通して、自分の目・耳・足で何かを感じ取ったり、それを仲間や先生と対話の中で考え続ける……そんな学びの楽しさが伝わればうれしいです。

PROFILE

現代人間学部長

心理学科 伊藤 一美 教授

専門分野：臨床心理学、生涯発達心理学



執筆者紹介

こころちゃんが京都北山エリアのおさんぽで出会った13人の先生たちを紹介します。いずれも、京都ノートルダム女子大学の心理学科で教鞭をとっている心理学の研究者・実践者です。

- | | | |
|--|-------------------------------|----------------|
| | 下田麻衣 Shimoda Mai | 担当：おさんぽ1 |
| | 向山泰代 Mukoyama Yassyo | 担当：おさんぽ2／あとがき |
| | 佐藤睦子 Sato Mutsuko | 担当：おさんぽ3 |
| | 仲倉高広 Nakakura Takahiro | 担当：おさんぽ4 |
| | 中藤信哉 Nakafuji Shinya | 担当：おさんぽ5 |
| | 高井直美 Takai Naomi | 担当：おさんぽ6 |
| | 菊野雄一郎 Kikuno Yuichiro | 担当：おさんぽ7 |
| | 黒田未央 Komoda Mio | 担当：おさんぽ8 |
| | 松島るみ Matsushima Rumi | 担当：おさんぽ9 |
| | 空閑美智子 Sorama Michiko | 担当：おさんぽ10 |
| | 伊藤一美 Ito Kazumi | 担当：まえがき／おさんぽ11 |
| | 武藤翔太 Muto Shota | 担当：おさんぽ12 |
| | 尾崎仁美 Ozaki Hiroshi | 担当：おさんぽ13 |

(本書190-191ページより)

学生 INTERVIEW

学びを形にするために 仲間と協力した試行錯誤の経験

プレゼンテーションサークル
けいはんな万博2025「古代都食商品開発コンペティション」



プレゼンテーションサークルは、サークル内での発表に加えて学内外のコンペにも参加しており、実践的な表現力や話の構成力を高めることができます。今取り組んでいるのは、濱中先生にご紹介いただいた「古代都食商品開発コンペティション」。このコンペは古代の食について調べた歴史や文化を発表するだけでなく、調べた後にチームで実際に古代の料理を作って再現するのが特徴です。アイデア出しでは、ありきたりではないか、本当に古代らしいのかと迷うこともありましたが、チームで協力しながら試行錯誤を重ね、調べた内容を形にしていく過程にやりがいを感じています。コンペに向けてチーム一丸となって挑戦し続けることで、良い結果を出したいです。



英語英文学科 2年次生

N.S. さん

Q サークルではどんな活動をしていますか？
A 週に1回集まり、毎回決められたテーマに沿ってスライドを作り、3分間スピーチを行っています。発表後はメンバー同士でフィードバックを行っています。

Q 読者へのメッセージをどうぞ！
A 考えるのが好き、話すのが好き。そんなあなたをプレゼンサークルで待っています！

私が所属しているフィギュアスケートサークルでは、個人での活動が中心で、技術向上をめざして日々取り組んでいます。2025年1月、第97回日本学生氷上競技選手権大会に出場しました。練習ではジャンプやスピンといった技の練習中何度も転倒し、本番では緊張から実力を発揮できず、思うように滑れない時期もありました。けれども、何度も練習した技が試合本番で成功した瞬間大きな達成感を味わうことができ、自分自身の成長を感じることができました。目標に向かって努力し続けた経験は、私にとって生涯忘れることのない貴重なものになりました。



生活環境学科 4年次生

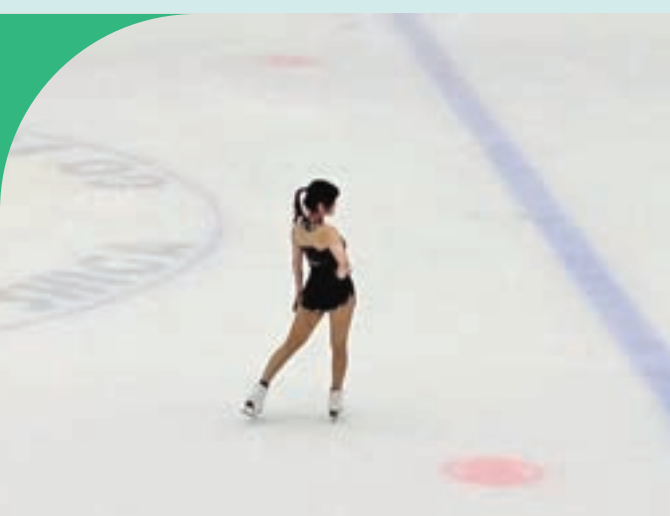
A.K. さん

Q 具体的にどのような練習や工夫をしましたか？
A 大会に向けて、練習量を増やしたり筋力トレーニングに励んだりするだけでなく、練習時の自身の姿を撮影し、練習後に振り返るという工夫も取り入れました。

Q 今回の経験を通して学んだことを教えてください。
A これからも苦しい思いや辛い思いをすることがあるかもしれませんが、それらを乗り越えた時にこそ、自分にとって貴重な経験が得られることを忘れないようにしたいです。

悔しさを乗り越えた先で掴んだ 確かな成長と達成感

フィギュアスケートサークル
第97回日本学生氷上競技選手権大会



本学では、さまざまな場で学生が活躍しています。
今号では、授業やクラブ活動、グループでの学生の取り組みをピックアップ！

就職活動を行う上で、地元・滋賀県に関わることで楽しく取り組めるのではと考え、滋賀県が主催する合同企業説明会「WORKしが博」の学生インターンへの参加を決めました。インターン内容は就職活動のサポート。学生の目線から、より多くの人に合同企業説明会に参加してもらうためのアイデアを考え、学生が企業の方にインタビューをする動画を制作するなど、さまざまな工夫を形にしました。大学も学年も違うメンバーと一つのものを作り上げる過程はとても刺激的で、制作物が完成したときは大きな達成感を得られました。この経験から、少しでも気になったこと、やってみたいと思ったことには、思いきって挑戦するべきだと感じました。これから失敗を恐れず、積極的にチャレンジしていきたいと思います。



心理学科 3年次生

A.M. さん

Q この活動の中で、困難だったことを教えてください。
A オンラインの打ち合わせが多く、最初は発言することに対し苦手意識がありました。しかし、インターンのグループの雰囲気が良かったため、次第に自分から発言できるようになりました。

Q 活動をしていて良かったことを教えてください。
A インターン先で友人ができました。就職活動で行き詰まったときに相談できるので、とても心強いです。

私は特別支援学校の教員をめざしており、3年次生のときに京都市立学校教員採用選考試験「大学3回生等 JUMP UP 特別選考」に挑戦しました。この試験は私が受験した年に初めて実施されたため、試験内容や対策方法は手探りの状態でしたが、ゼミの仲間と集まって小論文の練習を重ねました。試験の勉強を通して、教育に関する幅広い知識を学び、理解が深まっていくことに大きなやりがいを感じました。また学びを重ねるうちに自信が付き、楽しさを実感できるようになりました。努力の結果、一次試験に合格し、現在二次試験に向けて引き続き対策を進めています。この経験から「知らなかったことを知る楽しさ、面白さ」を改めて実感しました。



こども教育学科 4年次生

Y.K. さん

Q なぜ3年次で受験を決意したのですか？
A 早い段階で自分の実力を把握したいと考えたためです。また4年次での一度だけの受験に不安を感じ、受験の雰囲気や試験に慣れたいと思い、受験を決めました。

Q 読者へのメッセージをどうぞ！
A 何事にも挑戦することは不安があると思いますが、経験することで得られる学びや成長が大きくあると考えています。サークルやボランティアなど、何事にもチャレンジしてみてください！

地元愛×チャレンジ精神 工夫を形にする就活支援のインターン

WORKしが博 学生インターン



教員採用試験の中で得た 「知る楽しさ」

京都市立学校教員採用選考試験
大学3回生等 JUMP UP 特別選考



アラブ文化研修

2024年12月にアラブ文化研修に参加した学生たちにインタビュー。

現地での貴重な体験やアラブ文化の魅力、価値観の変化について語ってもらいました。

12月13日

・関西国際空港を出発
・アブダビに到着

12月14日

・JICE日本国際協力センター
による交流会
・The Arabian Days
Festival参加

12月15日

・ラクダレース見学
・The Arabian Days
Festival参加

12月16日

・モーニングデザートサファリツアー
(砂漠の砂丘をドライブするツアー)
・The Arabian Days Festival
参加

12月17日

・アブダビ見学(カスル・アルワ
タン、ヘリテージ・ビレッジ)

12月18日

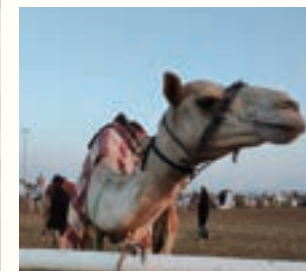
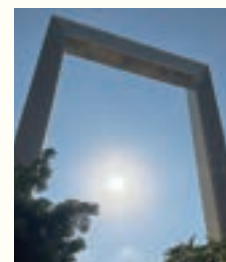
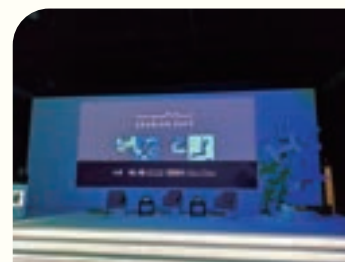
・アブダビ見学(シャイフ・
ザーイド・モスク、ルーブル・
アブダビ、Yas Mall、フェ
ラーリワールド)

12月19日

・ドバイ見学(Jum'a al-Majid Center、
アル・シンダガ博物館、アブラ乗船、
ゴールドスーク、スパイススーク、未来
博物館)

12月20日

帰国



慣れない環境に身を置くことで

異文化を受け入れる柔軟性が身についた

国際日本文化学科 4年次生

A.O.さん

Q. 参加のきっかけは？

A. 大学で国際関係を学ぶ中でアラブ文化に関心を持ち、現地の
人々との交流を通じて価値観や生活習慣を体感したいと考えた
からです。渡航にあたり、文化的なタブーについて調べ、失礼のな
いように心がけました。

Q. 現地で印象的だったことは？

A. 日本の文化、特に書道や漢字に興味を持っている人が多く、とて
も驚きました。また、未来的な高層ビル群の中にスーク(市場)や
モスクが溶け込み、現代の技術と文化が融合した街並みも興味
深かったです。

Q. 自身が成長したポイントは？

A. 異文化を受け入れる柔軟性が身についた点です。慣れない価値
観や習慣に直面し、自身の視野の狭さに気づいたことで、多様な
考え方を尊重する姿勢が養われました。研修を通して多文化理
解に興味を持ったため、今後も海外ボランティア等に参加し、視
野を広げていきたいです。



憧れのアラブへ

積極的な交流で相互理解を深める

国際日本文化学科 3年次生

M.T.さん

Q. 参加のきっかけは？

A. 驚見先生のアラビア語の授業を受講しており、学びを深める中で
アラブ文化に強く惹かれるようになりました。いつか実際に現地
を訪れたいと憧れを抱いていたところ、アラブ文化研修について
知り、参加を決めました。

Q. 現地で印象的だったことは？

A. ビルや施設に貼られていた大統領の絵画やポスターです。日本の
選挙ポスターとは異なり、国民が大統領たちを敬う習慣・文化を
示していると知り、施設や建物を見るだけで国の文化に触れられ
ることを興味深く思いました。

Q. 自身が成長したポイントは？

A. コミュニケーション能力が向上しました。英語やアラビア語が
あまり話せなくても、相手の言うことを理解しようとする姿勢を
持てば、相手も私の英語を理解しようとしてくれました。さらに、
ボディランゲージも活用することで、相互理解を深めることがで
きました。



異文化交流によって

新たな「当たり前」を知る

こども教育学科 4年次生

N.A.さん

Q. 参加のきっかけは？

A. 日本と異なる価値観や文化に関心があったことに加えて、外国
文学の授業でアラブ文化に惹かれたことがきっかけです。事前
準備として、アラブの生活様式や簡単なアラビア語の挨拶を学
びました。

Q. 現地で楽しかったことは？

A. 折り紙と書道のワークショップを通して、現地の方と交流でき
たことがとても印象に残っています。出発前には、折り紙の概要と
折り方を知っていただくため、英語と簡単なイラストを用いた資
料を作成しました。

Q. 自身が成長したポイントは？

A. 新たな価値観に触れ、視野が広がりました。日本で当たり前だ
と想像していたことも、場所や文化が違えば見え方も変わること
に気づき、物事を多角的に見る姿勢が養われました。アラブだから
こぞ味わえる特別な体験が盛りだくさんで、これまでに知らなかつ
たアラブの魅力を発見できる貴重な体験となりました。



温かく迎え入れてくれた国

異文化への理解を深めることができた

国際日本文化学科 4年次生

M.H.さん

Q. 参加のきっかけは？

A. 授業で学んだ中東の言語や生活を肌で感じたいという思いか
ら、アラブ文化研修に参加しました。1年次に履修していたア
ラビア語の授業を聴講生として再度受講し、単語や挨拶を覚
えました。

Q. 現地で楽しかったことは？

A. 箏曲部に所属していることを活かし、現地の方にお箏を体験
してもらおう手伝いをしました。異文化交流のため、日本語で
海外の方にお箏を教えるのは難しかったですが、最後には上
手に弾いてもらえたことがうれしく、印象に残っています。

Q. 自身が成長したポイントは？

A. アラブ諸国に対して少し怖い印象が先行していましたが、あたた
かく歓迎していただき、親しみを感じました。魅力的な形や装飾
の建物を見学したり、広大な砂漠でラクダに乗ったりなど、新鮮
な体験を通して一回り成長できたと思います。



研究者インタビュー

多彩な研究分野を持つ本学の教員たち。
今回は2024年度の科学研究費助成事業に採択された2名の先生方の研究をご紹介します。

空腹ストレスが引き起こす
摂食障害と次世代への影響

思春期の食生活が未来の健康を左右する？ 日本人女性の“やせ”問題と低体重児出生の原因に迫る

近年、若い女性の“やせ”問題が話題ですが、それに関連した低栄養妊産婦による低体重児出生も大きな社会的課題となっています。食料供給事情の良い日本においてどうしてこれらの問題が起こるのか。その真の原因を探るため、思春期を「将来の妊娠などに順応できるように脳の視床下部が生活行動の制御機構を再プログラムする時期」と捉えて若年期における空腹ストレスが思春期以降の食行動と生殖機能に与える影響を解析しています。

科研費概要

研究課題 異常な空腹ストレスによる摂食制御機構の破綻－思春期の摂食障害と次世代への影響－
研究種目 基盤(B)
研究期間 3年
研究分担者 金沢大学 三枝 理博／
金沢大学 大黒 多希子／金沢大学 安藤 仁／
金沢大学 細野 隆／東京医科大学 小野 政徳／
奈良女子大学 中田 理恵子／金沢大学 藤原 浩



藤原 智子 教授 FUJIWARA Tomoko
生活環境学科

専門は食生活学。新しい疾患概念ADHOGD(Adolescent Dietary Habit-induced Obstetric and Gynecologic Disease: 思春期食習慣誘導産婦人科疾患)を世界に先駆けて提唱(Fujiwara T et al., *Nutrients*, 2020)。

インターネット上の世界が心の安全基地に 最新技術を活用した、新しい「居場所」づくり

LINEなどのチャットアプリを通して行われる「SNS相談」をご存知ですか？心理的援助へのアクセスを容易にできることから、最近では国や自治体などによって幅広く展開されています。ただ、その効果や援助する側のチャットでの相談対応については研究が不足していることも事実です。効果をより明確に示し、さらにAI技術の活用についても検討するために、他分野の先生方やNPO法人と協力して研究に取り組んでいます。

科研費概要

研究課題 SNS相談における効果要因の検討とAIを活用した相談体制の構築
研究種目 基盤(C) **研究期間** 3年
研究分担者 心理学科 伊藤 一美／
心理学科 下田 麻衣／社会情報学環 北村 美穂子



中藤 信哉 准教授 NAKAFUJI Shinya
心理学科

専門は臨床心理学。心理療法やカウンセリングの実践に基づき人の心やその援助について研究しており、主なテーマは「心理的居場所」。

SNS・AIを
心のケアや相談のツールとして利活用

NDと社会

本学は地域連携・産学連携をはじめとした社会貢献活動を行っています。
今号は2025年度に行われた取り組みや継続的な取り組みについてご紹介します。

▶ 学生×学生食堂「NDコミュニティダイニング」 学生食堂を地域活性化に資する集いの場に 2025年7月～

2024年度のライフキャリア科目「キャリア形成ゼミ」で「人が食で幸せになるエビデンス探求ゼミ」に参加し、「学生食堂の顧客満足度を上げる」ことに取り組んだ学生と、学生食堂を運営する株式会社笑顔会(マルタマフーズグループ)が、学生食堂を利用した地域活性化の取り組みを開始しました。(団体名:「NDコミュニティダイニング」)
京都市左京区内では、「高齢者や学生の単身者が多く、孤食となりがちである」という課題があり、この課題に対して、学生食堂を活用した食のイベントを2025年7月より月1回開催しています。イベントでは食堂開放の他にも、防災や高齢者のフレイル予防、食育、地域の文化講座なども盛り込んで実施されます。地域に住む多世代が交流できる「新たなコミュニケーションの場」の創出をめざしています。



▶ 学生が祇園祭・保昌山の粽(ちまき)づくりボランティアに参加 1100年続く祇園祭の伝統を守る手仕事を体験 2025年7月

国際日本文化学科の堀勝博特任教授の呼び掛けにより、同学科の学生・卒業生の約30名が祇園祭の山鉦の一つ「保昌山」で授与される粽(ちまき)づくりのボランティアに参加しました。保昌山の粽づくりに学生が関わるのは初めてのことです。
学生たちは7月2日から7月9日に行われた粽作りのお手伝いをしました。他のボランティアメンバーとも交流しながらの楽しい作業で、3000個の粽がいつもよりも早くできたと、保存会の方にも喜んでいただきました。作業場である保昌山保存会の会所には、円山応挙直筆の屏風絵(御神体の前懸と両胴懸の下絵)が展示されており、学生たちはその歴史的価値に触れるかけがえのない時間を過ごしました。
さらに、学生たちは7月13日から7月16日までの宵山期間中、粽の授与も体験しました。ボランティアに参加した学生からは「伝統文化に直接触れることができ、非常に貴重な経験だった」という感想が聞かれました。
この取り組みは、学生にとって祇園祭という1100年続く日本の伝統文化を深く理解し、地域社会とのつながりを強化する貴重な機会となりました。



▶ 心理学科×株式会社G-Place「誰もが快適な生理を」プロジェクト 京都ノートルダム女子大学で「～誰もが快適な生理を～甲子園 2025」を開催 2025年8月3日

現代人間学部・心理学科では、女子大学生の月経をめぐるウェルビーイングの向上をめざし、学内でのナプキン配布や学生の月経に対する意識について調査を行ってきました。
2025年8月3日、「誰もが快適な生理をプロジェクト」の一環として、「Femtech Japan」を運営する株式会社G-Placeと連携し、スピーチコンテスト「～誰もが快適な生理を～甲子園2025」を京都ノートルダム女子大学・NDホールで開催しました。
当日は「誰もが快適な生理を」プロジェクトに取り組む全国の生徒・学生、および企業の担当者7組が参加し、生理の環境改善に取り組むためのスピーチや、ポスター・POP等の掲示を実施しました。
本学心理学科からもスピーチにエントリーし、金賞(グランプリ)を受賞しました。また、トークセッションではゼミでの活動を紹介し、教職員も交えてディスカッションを行いました。



先生たちに聞いてみた

着任された先生より

2025年4月に新しく着任された先生5名にお話を伺いました。

Q1 研究分野・足跡 Q2 本学でやってみたいこと・経験したいこと

TACHIWANA Fusako



立和名 房子 特任講師
国際日本文化学科

日本語教育機関で主に留学生対象の日本語教育に従事。初任教師への教案作成指導等の研修に携わる。その後、大学留学生別科の日本語授業や民間日本語教師養成講座での実技指導および試験対策講座の授業を担当。

Q1

第二言語としての日本語教育です。学習効果を高めるために、教師はどんな工夫ができるかということに興味があります。語学留学を機に、学習者の可能性を広げるお手伝いをしたいと思うようになりました。教育現場で培った経験から、現在は教師養成にも関心を持っています。**今後は日本語学習を通して人や社会とのつながりを作っていけるような教材やコースの開発もしていきたいと考えています。**

Q2

ND祭などのイベントにできるだけ参加し、学生のみなさんと交流したり、何か一緒にできることを探して形にできればいいと思っています。

Message

日本社会は今後、ますます「多文化共生」になっていくでしょう。若い世代の人たちには「日本語」を通して新たな視点や多様な価値観に触れ、人をつなぐ存在としてより開かれた社会を築いてほしいと願っています。

YASUKAWA Akemi



安川あけみ 特任教授
生活環境学科

愛知県出身、奈良女子大学家政学部卒業、同大学院家政学研究科修了。博士(薬学)。大阪教育大学等に勤務後、弘前大学教育学部家政教育講座で14年間過ごす。専門は被服学。

Q1

研究分野は**被服学**です。中でも、自身で合成した無機微粒子を用いたUVカット性付与、天然植物色素を用いた染色などの被服加工や、家庭科の授業で取り入れやすい被服学分野の教材研究、特に実験法の考案を研究テーマとしています。現代の若者は衣服を見た目で選ぶことが多いかと思いますが、**衣服はマネキンではなく活動する人のためのものなので、審美性だけではなく機能性を併せ持つことが大切**だと考えています。

Q2

先日エレベーターで乗り合わせた学生さんが、「**お先に失礼します**」と細やかな心遣いを見せてくれました。日々、本学の学生達の上品な振る舞いに日常的に触れ、すでに、素敵で心豊かな経験をしています。

Message

得意なことを伸ばすのは良いことですが、同時に人は苦手なことを敬遠しがちです。しかし、苦手だと思っていたこともやってみたら意外な才能が開花するかもしれません。心身ともに柔軟な若い間に、何事にも挑戦してください。

SHIMA Asami



司馬 麻未 特任講師
生活環境学科

武庫川女子大学大学院生活環境学研究科生活環境学専攻 博士課程修了(2021年)、博士(生活環境学)。関西学院大学建築学部助手、非常勤講師を経て本学に着任。専門は建築計画・住居計画。

Q1

家族や暮らしの多様化に着目し、それに対応した新たな住まいや住まい方を研究しています。この研究のきっかけは、修士課程でシェアハウスを知ったことです。「どんな場所で、どんな人が、どんな暮らしをしているのだろうか?」という疑問と興味湧いたのが、シェア居住に注目するようになった始まりです。**現在は、シェア居住における人間関係の形成過程や、住まいに関する調査を通して研究を進めています。**

Q2

恵まれた立地環境である北山の地で、学生のみなさんと一緒に地域との連携活動に積極的に取り組みたいと思っています。また、個人的な事ですが、**ソフィア館前の素敵な茶室でいつか薄茶を点ててみたい**です。

Message

大学で過ごす4年間はあっという間です。時間を大切に、多くのことに興味・関心を持って、積極的に挑戦してもらいたいです。みなさんと共に学び、得た学びを社会に活かしていくお手伝いができれば嬉しいです。

OCHIHARA Keiko



荻原 桂子 特任教授
こども教育学科

長年、宮沢賢治や新美南吉の作品研究、絵本研究に取り組み、現在は現代人間学部こども教育学科にて国語教育やことばに関わる講義を行っている。『教室で読む宮沢賢治』(花書院)を執筆。

Q1

日本文学について研究しています。夏目漱石を筆頭に、日本古典文学についても研究しています。中学生の時にエミリー・ブロンテの『嵐が丘』を翻訳で読んだ事がきっかけとなり、虚構の中にある真実について興味を持ちました。**文学には事実では解き明かせないものがたくさんあり、そこにまた魅力を感じています。**

Q2

本学には**裏千家茶道部など、日本の伝統文化に触れることができる部**があり、外部講師や先輩方から多くのことを学ぶことができます。学生のみなさんと共に日本文化に触れながら活動できることをとても楽しみにしています。

Message

京都ノートルダム女子大学は素晴らしいところです。色々な大学に勤めましたが、本学が一番好きです。当たり前ではない環境で学べる今と自己を大切に、図書館でたくさんの本に触れ、他者への想像力を育んでください。

Daniel King



Daniel King 嘱託講師
英語英文学科

専門はスピーキング、パフォーマンススキル、文学。主な研究内容は、ゲーミフィケーション、実際の会話を通じて学ぶ授業、言語学習や教育へのテクノロジーの活用。

Q1

私の**研究分野はコミュニケーションを重視した英語教育や教員育成**で、特にゲーミフィケーション(ゲーム要素を授業に取り入れること)やテクノロジーの活用に注目しています。テクノロジーを適切に活用すれば英語のスキルが習得しやすくなりますが、課題もあるため、教師も学習者もその使用方法をよく学ぶ必要があると考えています。

Q2

学生と深くかわかり、彼女たちが大学を卒業した後も自信を持って英語を使えるようサポートしたいと考えています。また、授業や研究を通して指導法の充実化を図り、他の先生方と連携して言語教育分野に貢献したいです。

Message

みなさんの趣味や興味があることなど、何でも話してください! 私の趣味は美味しいものを食べることと料理(最近はパン作り)です。この大学で楽しい時間を過ごし、社会で活躍するための準備をしていきましょう。

研究成果報告

本学では、独自の学内研究助成制度として「京都ノートルダム女子大学研究助成」を設けています。今回は、2025年度に国外研修助成金(短期)を受け、国外研修に参加された心理学科の松島み教授にお話を伺いました。

国外研修として、ジェンダー教育の先進的な取り組みを行っているタイのタマサート大学を訪問しました。同大学のFaculty of Learning Sciences and Educationの先生方に対し、現在、心理学科で産学連携活動の一環として進めている「誰もが快適な生理を」プロジェクトの取り組みを紹介し、日本とタイの月経に対する認知の差異や社会的課題についてディスカッションを行いました。さらに、同大学においてジェンダー啓発や本学でも取り組んでいる学内でのナプキン無料配布プロジェクトに取り組む学生グループの発表を聞かせていただき、活動の実情や課題を伺いました。この活動には多様なジェンダーの学生が参画しており、このジェンダーを超えた取り組みは同大学のジェンダーに関する意識の広がりと実践の深化をうかがわせるものであり、日本にとっても参考になる視点だと感じました。

今後は、日本とタイの大学生に実施した月経に関する調査結果をもとに、両国の結果について文化的背景を踏まえて考察する機会を持ちたいと思います。また、訪問時には、教育資源が限られた地域の子ども達向けに、ジェンダーや健康教育に関する教材開発に取り組む学生の様子も見学しました。今後、そのような教材開発を本学学生とともに取り組んでみたいと考えています。

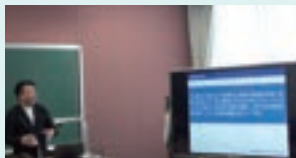


ND のイベントに密着 Events Diary

京都ノートルダム女子大学 研究プロジェクト発表会2025

2025
2.27

研究プロジェクト発表会2025を開催しました。この発表会は、京都ノートルダム女子大学研究助成の研究成果を学内外に発表するもので、今回は心理学科・松島るみ教授、こども教育学科・高田佳孝准教授、こども教育学科・廣口知世講師の2024年度までの研究助成の研究成果が発表されました（職名は2025年3月時点）。



第61回卒業式・ 第22回学位授与式を挙行了しました

2025
3.8

卒業式・学位授与式が執り行われ、卒業・修了生243名（学部生232名、大学院生11名）が本学伝統のキャップとガウンを身にまとい、式に臨みました。中村久美学長より学科および研究科の代表者に証書が授与され、卒業にあたっての式辞が述べられました。学部卒業生・修了生代表からの謝辞の後、大塚喜直司教様によるみことばの祭儀が行われ、参加者全員でこの佳き日を迎えられたことを感謝しました。



2025年2月～6月に実施した、学内の活動の一部をご紹介します。

令和7年度 入学式を挙行

2025
4.2

令和7年度入学式が執り行われ、編入生を含む学部生178名、院生9名が入学しました。学長、理事長とND育友会会長から祝辞が述べられ、新入生代表は「私たちはコロナ禍を経験し、人々と触れ合い集う喜び、今ある日常の大切さを学びました。この経験を糧に、4年間で共にする新たな仲間たちと明るく、楽しく、笑顔で切磋琢磨しながら多くを学び、成長していけたらと思っています。」と語りました。

その後、カトリック京都司教区鶴山神父様によりみことばの祭儀が行なわれ、祝福の言葉が贈られました。



2
Feb.

3
Mar.

4
Apr.

5
May

6
June

2024年度 学生表彰式を執り行いました

成績優秀者ならびに団体・個人活動が評価された学生、資格取得で優秀な成績をおさめた学生達が参加し、中村久美学長より賞状が授与されました。

成績
優秀者

藤川 愛菜（英語英文学科）
磯崎 彩雪（国際日本文化学科）
中山 琴音（生活環境学科）
黒川 京美（心理学科）
安田 たから（こども教育学科）



資格関係
表彰

精神保健福祉士：近山 悠妃（生活環境学科）
保育士：田中 樹希（こども教育学科）
フードスペシャリスト：塚田 梨子（生活環境学科）



学長
奨励賞
〔団体〕

- ・佐藤研究室 3年次ゼミ生
- ・人間関係をめぐる共生と福祉ゼミ
- ・MAGIE ESPOIR（マジエスポワール）
- ・小児医療ボランティア実践講座（2023・2024年度）
- ・京都府自死対策カレッジ会議（京都ノートルダム女子大学メンバー）
- ・硬式庭球部
- ・第22回カトリック総合スポーツ競技大会ボランティアチーム

学長
奨励賞
〔個人〕

- ・久米 紅里（生活環境学科）

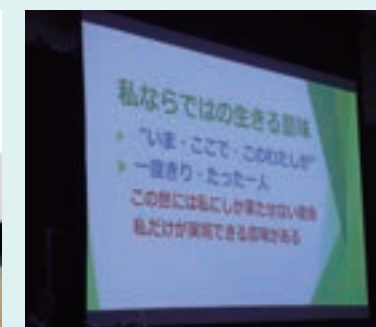


2025
3.7

カトリック教育センター 「春の講演会」

2025
6.8

仙台白百合女子大学学長加藤美紀氏をお迎え、「フランク心理学に学ぶ喪失からの再生」と題して講演会を開催しました。加藤先生は約140名の参加者を前にオーストリアの心理学者V.E.フランクの生涯や治療事例について紹介され、不条理な苦しみを前に「それでも人生にYESと言う」ため、それぞれの生きる意味や「希望のありか」についてわかりやすくお話くださいました。





新入生対象のフレッシュマンセミナーを開催

4月7日、新入生を対象に各学環・学科がフレッシュマンセミナーを開催しました。新入生がスムーズに大学生活に馴染めるよう、同級生はもちろん上級生や先生との交流の場を設けることが目的です。全体説明の後、学科ごとに分かれてレクリエーションを実施。女性キャリアデザイン学環は、5つのゲームを通じてチームで戦略を考えながら取り組み、協力する中で多くを学び、仲間との距離も自然と縮まりました。社会情報学環は、2年次生が企画したアートゲームや学内探索を通して、新入生同士の親睦を深めまし

た。心理学科は、上級生がくじを引き、出たお題に沿って自己紹介を行い、その後は教員が待つポイントを回ってゲームを楽しみました。こども教育学科は、2年次生が企画した「名前BINGO」などのゲームを通じて、新入生同士や先生方の名前もすぐに覚えられるなど自然に交流が生まれました。学科ごとのレクリエーションの後には、ユニソン会館でクラブ・サークルによる「クラブ体験」が実施され、説明や実演を交えて各団体が活動内容や魅力を新入生に熱心に伝える姿が見られました。



「THE 日本大学ランキング 2025」【国際性】分野で京都の女子大学1位にランクイン

4月3日に「THE 日本大学ランキング 2025」が発表されました。本学は国際性分野で関西の国公立大学の中で 第14位、女子大学で2位、京都の女子大学では前回に引き続き1位にランクインしました。



ガーマ FrieND 始動！交通安全啓発活動を行いました

4月11日、下鴨警察署の方を迎え、本学の交通安全ボランティアチーム「ガーマ FrieND(フレンド)」の委嘱式を行いました。式後は、警察署の方々と学内食堂で啓発活動を実施。チラシやグッズを配りながら、交通事故防止を呼びかけました。



スポーツ週間を開催しました

6月30日から7月4日まで、総クラブが主催となり「スポーツ週間」を実施しました。期間中は、テニス部・バドミントン部・バスケットボール部が中心となり、初心者も経験者も関係なく、誰でも気軽に参加できる形で、スポーツを通じて楽しい交流が広がりました。



学生交流イベント「学歌の日」を開催

4月30日、学生交流イベントが開催され、新入生を中心に40人を超える学生・教職員が参加しました。学歌を歌い、大学に親しみを感じながら学生間の交流を深めることが目的です。第1部では、客員教授の寺下徹先生とピアノ伴奏の竹山千晶先生に笑顔で優しく学歌を指導いただき、第2部では、新入生がユニソン会館のベルタワーの鐘を鳴らしたほか、クラブツアーや教職員との相談コーナーにて交流を楽しみました。



3年次生対象の第1回キャリアガイダンスが実施されました

5月14日、3年次生を対象に「キャリアガイダンス」が開催され、104名が参加しました。キャリアセンター教職員およびアドバイザー3名が、長きにわたる進路支援の中で蓄積された、学生の行動傾向やよくある質問をもとに解決策を提示しました。就職活動の最新動向、公務員・教員採用試験のトレンドや対応策、キャリアセンターの活用法、支援イベントも紹介されました。参加学生からは「今やるべきことが明確になった」との声が多く、今後の行動へのきっかけとなりました。



2024年度アラブ文化研修の報告会を実施

1月9日、1月14日、1月16日の3日間にわたり、「2024年度アラブ文化研修報告会」を本学イマージョンスペースにて行いました。研修に参加した学生がアラブ首長国連邦(UAE)(アブダビ/ドバイ)での活動や体験を発表。参加学生の一人は「現地の人々との交流を通じて、言葉が通じなくても理解し合おうとする姿勢や、ボディランゲージなど非言語コミュニケーションの重要性を学んだ」と語りました。聴講した学生からは、海外研修への関心が高まった様子がうかがえました。



日本カトリック大学・短期大学連盟総会が実施されました

2025年度日本カトリック大学・短期大学連盟総会が、6月6日・7日の2日間にわたり、本学を当番校として、本学および京都ガーデンパレスホテルにて開催されました。全国の加盟19大学・5短期大学から学長が一堂に会し、決算報告や事業計画の審議、カトリック大学の使命について活発な議論が行われました。加盟校の連携強化と教育の発展が期待されます。



京都府立大江高等学校との連携授業を実施しました

京都府立大江高等学校(京都府福知山市大江町)の地域創生科2年生と本学学生による連携授業が6月に実施されました。「きもの文化」の継承と、西陣織の「残糸」の活用方法を課題として、西陣織を製作する宮階織物(株)でのフィールドワークを実施しました。3日目の発表会では、きもの製作の現場を体験した高校生による個性的な提案が発表され、本学学生も残糸のユニークな再利用方法を提示し、活発な意見交換が行われました。



01 タイ王国 タマサート大学と学術・教育協力に関する協定を締結しました

現代人間学部・心理学科の松島み教授との共同研究がきっかけとなり、2025年4月16日付で京都ノートルダム女子大学とタイ王国・タマサート大学Faculty of Learning Sciences and Educationとの間で学術・教育協力に関する協定が締結されました。

協定の締結により、今後は教職員や学部生および大学院生の交流、共同研究プロジェクト・シンポジウムの開催など、他国の先進事例を参考に日本のジェンダーギャップを考える機会となることが期待されます。



02 学習アドバイジング・教職課程支援のご案内

ND教育センター事務局

ND教育センターでは、文章作成の基礎などの学習アドバイジング、教職課程履修者への支援を行っています。

■ 文章作成アドバイジング

学習相談 文章作成の基礎に関する相談を、ND教育センター事務局で受け付けています。

オンライン講座 manabaで「文章作成の基礎づくり」を行っています。センターが提供する文章作成に関する課題に取り組むことにより、苦手意識を克服し、段階的に文章作成の基礎を身につけていきます。

■ 教職課程支援

教職課程に関すること、教員採用試験に関するガイダンス・説明会や対策講座、教職大学院や教師塾などの案内など。

03 キャンパスミニストリー室へ足を運んでみませんか？

キャンパスミニストリー室

キャンパスミニストリー室は学生たちのためのほっとできるスペース。

- キャロライン館1階、入ってすぐ右。
- 火曜日～金曜日の12:00～17:30開室。
- おやつ、おひるごはん、勉強、作業などにどうぞ。
- 出入り自由。予約も申し込みもいりません。
- シスターのX(旧Twitter)はじめましたのでフォローお願いします。

X(旧Twitter)の
二次元コードは
こちら▼



04 2025年度 科研費採択について

研究推進課

2025年度の科学研究費助成事業(科研費)に本学の教員が「研究代表者」として申請した研究が3件採択され、継続研究を含め本学教員が研究代表者の研究課題は計16件となりました。このほか、本学の教員が「研究分担者」となっている研究課題が計16件あります(2025年7月現在)。

所属・職名	研究代表者氏名	研究種目	研究課題名
英語英文学科 教授	田口 茂樹	基盤研究(C)	日本語中間構文の成立要件:現象文と主題文及び総称文の言語横断的研究
国際日本文化学科 教授	河野 有時	基盤研究(C)	教材としての挿絵の機能とその活用に関する研究-中学校国語教科書を中心に-
心理学科 准教授	菊野 雄一郎	基盤研究(C)	Crowdingを用いたディスレクシアにおける大細胞障害理論の検討

スケジュール

SCHEDULE

2025年9月 — 2026年3月

本学のイベントは
公式サイト上でも
ご確認ください。



在 在学生
卒 卒業生
教 教職員
保 保証人(保護者)
一 一般

2025年9月28日(土) 11月16日(日)
11月30日(日)

在 卒 教 保 一

DXリカレント講座

時間/各回 14:00～16:00(受付開始 13:30～)
場所/ユーヅニア館(NDホールまたは情報演習室2)
受講料/1回あたり500円(受講日当日に徴収)
定員/1回あたり50名 ※申込受付期間を延長する場合があります
申込受付期間/2025年6月9日～2025年11月23日

2025年9月27日(土)

在 保

ND育友会教育懇談会

時間/ 13:00～
場所/ ユーヅニア館 NDホール
お問い合わせ/総務企画課
TEL.075-706-3700

2025年11月13日(木)

在 教

物故者追悼ミサ

時間/10:30～(予定)
場所/ユニソン会館大ホール
お問い合わせ/総務企画課
TEL.075-706-3700

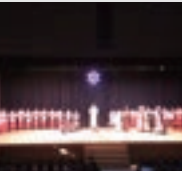


2025年12月18日(木)

在 卒 教 保 一

ノートルダムクリスマス

時間/14:00～(予定)
場所/ユニソン館大ホール
お問い合わせ/学校法人ノートルダム女学院
法人本部事務局
E-mail: notre-houjin@notredame.ac.jp
TEL.075-723-1072



その他のスケジュール

■ 9/26:後期授業開始日 ■ 12/24-1/4:事務取扱休止 ■ 1/29:後期授業最終日 ■ 1/30-2/6:定期試験期間

編集後記

▶4月末の学生募集停止の知らせ以降、学内には戸惑いや静かな緊張感も感じられましたが、在校生たちはいつも通り元気に授業やクラブ活動、アルバイトなど学生生活にしっかりと取り組んでおり、その姿に本当に励まされます。学内のそんな前向きな日々を、これからも広報担当としてしっかりお届けしていきたいです!

2025年9月25日(木)

在 教 保

前期卒業式・学位授与式

時間/10:30～
場所/ユーヅニア館聖堂
お問い合わせ/総務企画課
TEL.075-706-3700



2025年10月25日(土) 26日(日)

在 卒 教 保 一

ND祭2025

時間/ 10:00～17:00
場所/京都ノートルダム女子大学
テーマ/Blooming!



2025年11月15日(土)

在 卒 教 保 一

公開講座
地域の居場所づくりプロジェクト
「寄合処YORIAI DOKORO 集い場TSUDOI BAR」
～地域連携・協働の必要を大学とともに実働として～

時間/13:00～15:00
場所/ユーヅニア館 NDホール
参加費/無料
※参加申込方法等の詳細は公式サイトにて公開予定

2026年3月14日(土)

在 教 保

卒業式・学位授与式

時間/10:00～
場所/ユニソン会館大ホール
お問い合わせ/総務企画課
TEL.075-706-3700



京都ノートルダム女子大学 大学報 2025年9月25日

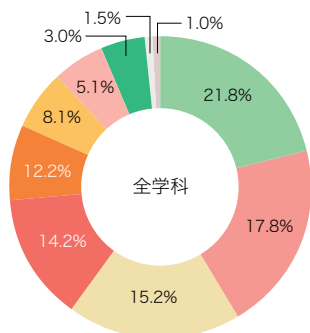
NDキャンパス通信 Vol.23

編集・発行/ 京都ノートルダム女子大学 管理運営部 入試・広報課
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地
URL : https://www.notredame.ac.jp
E-mail: kikaku-koho@notredame.ac.jp
制作/ 株式会社WAVE

本誌は京都ノートルダム女子大学ND育友会の資金援助を一部受けています。
※掲載している情報は制作時点(2025年8月下旬)のものです。

2024年度卒業生 就職・進路実績

2024年度卒業生の最終就職決定率は98.5%と、高い水準を維持することができました。(2025年5月1日現在)



具体的な就職・進路先や学科毎の就職率については二次元コードからご確認くださいませ。



京都ノートルダム女子大学への寄付のお願い

聖母マリアを校名にいただく京都ノートルダム女子大学は、建学以来多くのみなさまからのご支援により支えられ、「徳と知」の建学の精神のもと、社会に貢献する女性の育成を行ってまいりました。女子教育に専心してきた私たちの大学運営も期限を迎えることになりますが、すべての在学生在が自信と誇りをもって卒業していけるよう、最後まで良好な教育環境と多彩な経験を積む機会を提供し続けたいと考えています。つきましては、これまで京都ノートルダム女子大学を応援してくださってこられたみなさまに対し、教育充実や学生支援を目的とした募金に引き続いてご支援を賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

京都ノートルダム女子大学
学長 中村 久美

■ お申込み方法



I: 銀行振込によるご寄付

銀行・郵便局からご寄付いただけます。

II: インターネット募金

クレジットカード、インターネットバンキング(Payeasy(ペイジー))、コンビニ支払のいずれか便利な方法を選択してご寄付いただけます。

III: 古本募金

みなさまから読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額をご寄付いただく取り組みです。

IV: ふるさと納税寄付金を活用した地域連携活動支援

寄付金については、京都ノートルダム女子大学及び京都市で取り組む、大学・学生と地域の連携促進事業等に活用されます。

Present

I: 銀行振込によるご寄付、II: インターネット募金による寄付を5,000円以上頂いた方には、以下のうちご希望の品をお送りいたします。

A: ND祭(秋開催)で使用出来るチケット

B: 京都ノートルダム女子大学オリジナルグッズ、NDクリスマスカード送付(12月)

※領収書を送付する際に、返信用書類(メールもしくはFAX)を同封いたしますので、
そちらでご希望の品物(AまたはB)をお選びください。

寄付金に関する
お問い合わせ

京都ノートルダム女子大学 管理運営部 財務課
E-mail: accounting@notredame.ac.jp TEL.075-706-3703 FAX.075-706-3707